県かこ 兵庫県立加古川医療センター
地域医療連携ニュース
vol.87
2018年
10.11月号

発　行：兵庫県立加古川医療センター　〒675-8555 加古川市神野町神野 203 番地　http://www.kenkako.jp/
ＴＥＬ：079-497-7000（代表）　ＴＥＬ：079-497-7011（地域医療連携部直通）　ＦＡＸ：079-438-3756（地域医療連携部直通）

もくじ

- 第10回県かこ県民フォーラムを開催いたしました … 1
- リウマチ膠原病センター … 2
- 消化器内科 … 3
- 神経内科 … 4
- 形成外科 … 5
- 皮膚科 … 6
- 専門看護師の活動 … 7
- 外来診療表 … 8

第10回県かこ県民フォーラムを開催いたしました

テーマ：ほんとは怖い骨粗しょう症 ～骨を丈夫にして健康寿命を延ばしましょう～

「骨粗しょう症―いつのまにか骨折―について」　医師　岸本　健太

骨粗しょう症とは、骨の量が減り、もろくなり、骨折しやすい病気であること。怖いのは、自覚症状がなく進んでいき「いつのまにか」骨折を起こしていること。また骨折の連鎖もおこりやすく、骨粗しょう症の人は骨折リスクが４倍以上でこれは寝たきりにつながりやすくなり、QOL を著しく低下させるものとして問題になっていること。そして、骨粗しょう症の予防として、運動・栄養・日光浴が挙げられ、手術・薬物治療の紹介や骨粗しょう症外来の紹介がありました。

「骨粗しょう症治療薬の正しい飲み方」　薬剤師　百済　圭祐

薬物治療には、①骨吸収抑制薬、②骨形成促進薬、③骨代謝調整薬という大きく３つの種類があり、それぞれの作用・副作用・使用時の注意点の説明がありました。また、骨粗しょう症治療の１年後の継続率は４割と低いため、治療として意識し継続すること、自己判断で中止しないこと、気になることはいつでも質問していただくことが大切との説明がありました。

「骨粗しょう症予防のための食生活のポイント」　管理栄養士　太原　和美

骨粗しょう症の予防としてカルシウム摂取が必要ですが、現在はどの年代層もカルシウム摂取率が 10～20％程度不足している。そのため、カルシウムを多く含む牛乳・ヨーグルトなどの乳製品のほか、小魚、海藻類、緑黄色野菜もカルシウムを多く含むものとして摂取すると効果的であること。ビタミンＤ・Ｋを多く含む食品摂取もカルシウム吸収に効果的であり、きのこ類や魚、また納豆などもよいとの説明がありました。参加者全員で、カルシウムセルフチェック表で自身の摂取状況の確認も行いました。

「骨粗しょう症予防のための運動」　理学療法士　土井　秀敏

骨粗しょう症の予防として、筋力維持やウォーキングなどの運動を取り入れることが大切ということで、骨に負荷がかかる生活の中の運動として①片足立ち、②その場で足踏み、③その場でジャンプ（実際にはつま先立ち）という日常生活でできる運動をみんなで行いました。

また、自宅内で「ころばない」ために環境を整えることが大切で、床のかたづけ、手すりなど補助の使用、夜間足元を照らすライトなどの設置が必要との説明がありました。

「急性期病院における骨粗しょう症マネージャーとしての役割」　看護師　荒枝　典子

骨粗しょう症の予防への取り組みとして、加古川医療センターでは現在４名が骨粗しょう症マネージャーの資格を取得していること、治療率の向上と再骨折の防止に向けて、院内でのスタッフへの勉強会の開催や、治療の早期介入の定着を目指し活動中であることなどの説明がありました。

リウマチ膠原病センター

リウマチ膠原病センター次長兼リウマチ科部長　**塩澤和子**

2016年4月にリウマチ膠原病センター（リウマチ科）が開設され、2.5年が経過しました。

この間、地域の先生方からのご紹介などで患者数は順調に増え、開設時は甲南加古川病院からの移行患者約2000名でしたが、現在は約3000名が通院され、平均外来患者数80名／日、入院28名／日となっています。

関節エコー

■ 患者様向けリウマチ教室

リウマチ膠原病センターでは患者様向けリウマチ教室を月1回開催して、関節リウマチの病態、治療（薬物療法、手術）、リハビリテーション、栄養（食事で気を付けること）、リウマチに特徴的な検査（リウマトイド因子や抗CCP抗体、MMP-3など）、合併症、日常生活で気を付けることなどのテーマで内科、整形外科医と作業療法士、管理栄養士、看護師、薬剤師、臨床検査技師、ソーシャルワーカーが共同で講演して、リウマチ疾患全般の知識を増やすように心がけています。

リウマチ教室の様子

■ 医療関係者向け講演会

医療関係者向けにはリウマチカンファレンスを年3～4回、当院南棟研修室で開催しています。毎回テーマを決めて院内・院外の専門医に講演していただき、それに関連した症例検討をしています。加古川医師会を通して講演日時と演題名をご案内しますので、お時間が許せばご参加くださいますようお願い申し上げます。

リウマチ科医師

■ 外来診察

診察は毎日ほぼ4診で行い、2名のリウマチ整形外科医と4名のリウマチ内科医が共同で外来を担当しています。6名とも日本リウマチ学会の専門医で、もちろん当院は日本リウマチ学会教育施設です。整形外科医と内科医が共に外来にいますので、内科医が担当している患者様が関節手術を検討する際は、となりの整形外科医が入院期間や術後のリハビリなどを詳しく説明し、整形外科医が担当している患者様が発熱、呼吸器症状など内科的処置を要するときはすぐに内科医が対応します。

4月に関節エコーが外来に入りました。痛みのある関節に、リウマチに特徴的な滑膜炎があるかどうかを見ることができ、診断の精度をあげることに役立っています。

■ 医療機関の先生方へ

人口の高齢化に伴い、関節リウマチを新たに発症される方が増えています。リウマチや膠原病は早期診断、早期治療で関節の変形や臓器障害を防止できますので、関節痛のある方や、不明熱、皮疹、レイノー症状など、何か普段と異なる症状が出現された方がいらっしゃいましたら、いつでも診察させていただきますので、ご紹介くださいますようお願い申し上げます。

消化器内科

部長（内視鏡・超音波担当）兼消化器内科部長　**廣畑成也**

＜特色＞

● 新しいメンバーが加わりました

現在常勤スタッフ６名、専攻医１名で診療を行っています。４月から松浦 Dr の後任として岡田 Dr が赴任しました。よろしくお願い申し上げます。

● C 型肝炎は年齢に関係なく経口剤のみで 99%治ります

当院は兵庫県肝疾患専門医療機関に指定され、東播磨地区の肝疾患診療の中心施設として数多くの肝疾患症例をご紹介いただいています。C 型肝炎はインターフェロンを使用しない経口剤のみによる新しい抗ウイルス療法が導入されています。副作用がほとんどないため、従来治療が困難であった 70 歳を超える高齢者でも治療可能となり治療の対象症例が増えました。最新の治療薬は２か月の治療で 99%の治癒が得られます。B 型肝炎も新しい経口薬が長期投与可能となり、安全にかつ確実にウイルスのコントロールが可能となっています。B 型・C 型肝炎に関しましては年齢に関係なくご紹介いただければ幸いです。

● NASH（非アルコール性脂肪性肝炎）が増えています

診断がつかない原因不明の肝障害や単なる脂肪肝と思われていた症例のなかに NASH（非アルコール性脂肪性肝炎）がかなりの頻度で見つかっています。NASH はメタボリックシンドロームを背景にして、放置すると肝硬変、肝癌へと進展する病態です。診断には肝生検が必須で、生活指導も大事になってきます。他に自己免疫性肝疾患や肝腫瘍症例も精査を行い、適切な診断・治療に結びつけています。原因が不明な肝機能異常症例がございましたら遠慮なくご紹介ください。

● 内視鏡システムがすべて新しくなり、内視鏡センターが立ち上がりました

消化管癌の早期発見、悪性度・範囲診断に欠かせない NBI 搭載内視鏡システムを３台常設し、常時拡大内視鏡にて精密な観察・診断を行っています。早期癌の場合、内視鏡的粘膜下層切開剥離術（ESD）で１週間の入院で治療可能です。４月より埒本部長をセンター長として内視鏡センターが立ち上がりました。緊急例を含め今後も積極的に内視鏡検査に対応してまいりますので、症例のご紹介をよろしくお願い申し上げます。

● 上部内視鏡検査をお急ぎの時は「当日胃カメラ枠」をご利用ください

上部内視鏡検査を希望される場合は「当日胃カメラ枠」を設けて迅速に検査をお受けいただけるようにしています。ホームページの「医療機関の皆様へ」「紹介患者予約システムご利用に際してのお願い」に予約方法がございますので、積極的にご利用いただければ幸いです。

＜地域医療機関の先生方へ＞

今後とも、安心かつ信頼して最適な治療を受けていただける医療を提供することを心がけていきたいと考えています。緊急例、診断困難例はもちろん、検査のみのご要望でも積極的に対応してまいりますので、ご遠慮なくご紹介いただければ幸いです。今後ともよろしくお願い申し上げます。

■スタッフ

尹　聖哲	副院長（診療担当） 兼消化器内科部長	昭和57年卒
廣畑成也	部長（内視鏡・超音波担当） 兼消化器内科部長	昭和60年卒
埒本喜雄	内視鏡センター長 兼消化器内科部長	平成6年卒
戎谷　力	消化器内科医長	平成15年卒
白川　裕	消化器内科医長	平成19年卒
岡田寛史	消化器内科医員	平成25年卒
渡部貴文	消化器内科専攻医	平成27年卒

■検査・治療実績（平成 29 年度）

上部消化管内視鏡検査	3010
緊急止血術	79
食道静脈瘤結紮術（EVL）	44
内視鏡的粘膜下層切開剥離術（ESD）	61
胃瘻造設術	12
下部消化管内視鏡検査	1797
止血術	36
ポリープ切除術（EMR）	611
内視鏡的粘膜下層切開剥離術（ESD）	19
ERCP	188
胆道ドレナージ（ERBD/ENBD）	62
胆管結石砕石・除石術	40
EUS	66
EUS-FNA	8
腹部超音波検査	3677
造影腹部超音波検査	72
肝生検	143
肝炎抗ウイルス療法新規導入	75
経皮的肝ラジオ波焼灼術（RFA）	26
経カテーテル的肝動脈塞栓療法	93

神経内科

神経内科部長　**木村健一**

現在、当科は常勤医２名と非常勤医１名を中心として診療にあたっております。加古川など東播磨地域は神経内科医数が少なく、そのため一般に認知度が低い現状にあります。神経内科は脳、脊髄、末梢神経、筋肉に起こる病気の診断および内科的治療を行う診療科です。頭痛、脱力、ふるえ、しびれといったよくある症状を対象とします。気分や精神的な問題は心療内科や精神科が専門的に診療されます。

■ スタッフ

木村健一（平成５年卒）
森本耕平（平成 24 年卒）
渡部俊介（平成 25 年卒）（非常勤）

■ 認定施設

日本神経学会準教育施設

■ 主な対象疾患

①**脳血管障害：**脳梗塞、一過性脳虚血発作や脳出血などがあり、脳神経外科とも連携し診療します。
②**神経変性疾患：**パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、アルツハイマー病など。
③**神経免疫疾患：**多発性硬化症や重症筋無力症など、免疫の異常で起こる病気でステロイドなど免疫抑制剤による治療を行います。
④**神経感染症：**脳炎、髄膜炎など、抗菌薬などで治療を行います。
⑤**筋疾患：**筋ジストロフィーや筋炎などがあり、大学病院等とも連携し筋電図や筋生検にて診断します。
⑥**末梢神経疾患：**神経伝導検査などにて診断し、遺伝性のものもありますが、ギランバレー症候群など免疫の異常で起こるものは免疫グロブリン療法など免疫療法を行います。
⑦**発作性疾患：**てんかん、片頭痛など脳波や MRI などにて診断し、各病型に応じた薬物治療を行います。
⑧**またその他内科疾患に伴う神経症状に対し診断、治療を行います。**

神経内科は認知症、脳卒中、てんかんなど頻度の高い疾患も対象とします。当院の主な診療機能の一つに神経難病医療の提供を挙げていることから、当科では、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、重症筋無力症など、神経難病の診療向上に努めていきたいと考えています。今後とも宜しくお願い申し上げます。

形成外科

形成外科部長　**櫻井　敦**

平素より貴重な症例をご紹介頂き誠に有り難うございます。平成30年度は常勤医師4名が在籍し、外来診療は火曜日を除く毎日、三診体制で行っております（火曜日、休日、夜間も急患は随時対応致します）。当院では外傷症例（主に顔面、手足の軟部組織損傷、欠損、顔面骨骨折、熱傷等）が多い傾向にありますが、近隣の眼科の先生方よりご紹介頂く眼瞼形成症例（眼瞼下垂症、睫毛内反症、眼瞼悪性腫瘍の切除、再建etc.）や皮膚科の先生方からご紹介頂く皮膚腫瘍（良性、悪性＋再建）、アザ（太田母斑、異所性蒙古斑、外傷性刺青等）、難治性潰瘍症例（褥瘡、糖尿病性潰瘍、PAD etc.）も多く、最適な治療法を求めて日々研鑽を積んでおります。今後ともご紹介のほど、どうぞ宜しくお願い致します。

＜当科で主に扱う疾患＞

外傷（ケガ）

ケガにもいろいろありますが、当科では**顔面骨々折**（鼻骨、頬骨、顎骨等）、**顔面外傷**（切り傷、擦り傷など）、**熱傷**を中心に全身のケガの診察をおこなっております。手指の損傷（**切断指**）に対しても**マイクロサージャリー**（顕微鏡を用いた血管吻合術）で対応しています。

顔面外傷は受傷直後の適切な治療（**形成外科的縫合手技、湿潤療法**等）により醜状障害を減らすことができます。また**受傷直後の傷跡**に対しては、創傷被覆材、内服薬などにより、ある程度目立ちにくい傷跡にできます。**経過の長い目立つ傷跡**に対しては、**修正手術**により整容的な改善が見込めますので、お気軽にご相談ください。

変形、ひきつれ

大きな腫瘍を切除した後や、ケガによってできる深い大きな傷とその周りには変形（皮膚、軟部組織の欠損、凹み、**ひきつれ**等）が生じます。最近では、より正常な状態に近づけたいという患者様の要望も強く、**組織移植**（皮膚、骨、脂肪、筋肉等）技術を用いた再建術（**乳房再建**等）や**局所皮弁術**等を用いた治療をおこなっています。また術後の**リンパ浮腫**に対する、リンパ管静脈吻合術（顕微鏡下）も施行しております。

腫瘍（できもの）

良性の“ほくろ”から**悪性腫瘍**（皮膚ガン）に至るまで、**整容的、機能的な面に配慮**した手術を心がけています。メスで切る方法や、**炭酸ガスレーザー**で削る方法など腫瘍の大きさ、形、場所に応じて適切な方法を選択します。特に**傷跡を気にされる女性、子供**の顔面、四肢の症例をご紹介頂ければ幸いに存じます。

潰瘍、床ずれ

褥瘡（**床ずれ**）、難治性**潰瘍**（糖尿病性、末梢循環不全によるもの等）に対して軟膏、創傷被覆材を用いた保存的治療（**湿潤療法**）から、皮弁術、植皮術といった手術療法まで、症例に応じた治療をおこなっております。

先天奇形

合指症、多指症、臍ヘルニア（でべそ）、耳介変形、副耳、眼瞼下垂症、睫毛内反症（逆まつ毛）、母斑（あざ）など幅広く対応いたします。母斑（あざ）治療に関してですが、当科に配備されている**アレキサンドライトレーザー**は、主にメラノソームに吸収されるという特性を持つため、メラニン色素系の疾患に効果を発揮します。保険適応としては太田母斑、異所性蒙古斑、外傷性異物沈着症（外傷性刺青）があります。

その他

最近では、コンタクトレンズの普及に伴い腱膜性**眼瞼下垂症**で受診される患者様が増えています。また保険による**腋臭症**（ワキガ）の治療もおこなっております。

自費診療

トレチノイン軟膏、ハイドロキノン軟膏、アレキサンドライトレーザーを用いた**シミ治療**をおこなっております。また刺青に対するレーザー治療も行っております。シミ、**刺青**ともに色素の種類、深さ等により治療効果が異なります。詳しくは形成外科外来までお問い合わせください。

皮 膚 科

地域医療連携部長兼皮膚科部長　**足立厚子**

＜スタッフ＞（2018 年 12 月 1 日以降）
常勤医：足立厚子部長☆（アレルギー・膠原病・乾癬・水疱症）、濱岡大医長（悪性腫瘍・皮膚外科、皮膚科一般）、竹内千尋医師（皮膚科一般）、中谷祥子専攻医、八木田隼啓専攻医。**非常勤医（外来のみ）：**高井佳恵医師

＜週間予定＞　外来午前は月～金。受付は午前 11 時まで、午後は再診予約のみ。
アレルギー外来＝月曜再診予約のみ、アレルギー外来は午前診察の上予約します。

＜認定施設＞　日本皮膚科学会教育認定施設。日本アレルギー学会認定教育施設。日本癌治療学会教育施設。生物学的製剤認定施設。

＜医療設備＞　Waldmann 紫外線治療器（全身型・部分型 UVA narrow band UVB）、エキシマライト（ウシオ電機）、イオントフォレーゼ、デルマトスコープ、炭酸ガスレーザー、Q スイッチアレックスレーザー、スポット型近赤外線治療器：スーパーライザー、電子線照射装置、静脈還流圧測定装置、センチネルリンパ節生検用γシンチカメラ

＜各疾患に対する治療方針＞

★アレルギー疾患＝じんま疹、金属アレルギー、アナフィラキシー、重症型薬疹、ラテックスアレルギー、食物アレルギー、口腔アレルギー症候群について、原因成分まで決定し生活食事指導、代替品紹介をしています。蜂アレルギーや一部の薬物アレルギーには減感作治療も施行しています。救命用自己注射用キット（エピペン）の処方が可能です。難治性慢性蕁麻疹にはゾレア、難治性アトピー性皮膚炎にはデュピクセントを使用し、軽快する患者様を多く診させていただいています。

★膠原病、血管炎、類天疱瘡、天疱瘡などの自己免疫疾患、ベーチェット病＝当地域はこれらの疾患に悩む患者さんが多発しています。臨床･病理により迅速な診断･精査し、入院も含めた加療･長期経過観察をしています。

★乾癬・膿疱性乾癬・類乾癬にはオクソラレン内服全身光線治療、全身ナローバンド照射、オテズラ内服、多種類の生物学的製剤も使用しています。乾癬は生活習慣病に伴う全身疾患と位置づけされています。個々の患者様の生活や皮膚および全身状態に合わせ、各々の治療法に伴う副作用にも注意しながら適切な治療をこころがけています。

★皮膚悪性リンパ腫＝病型分類、病期にあわせて全身光線療法、化学療法、放射線療法をしています。

★皮膚悪性腫瘍（基底細胞癌、ボーエン病、悪性黒色腫、乳房外パジェット病、悪性軟部腫瘍など＝外科的手術、放射線治療、化学療法により集学的治療をしています。局所全摘術のみならずセンチネルリンパ節生検やリンパ節郭清も施行しています。

★皮膚良性腫瘍＝外科的手術、時に炭酸ガスレーザーにより治療し、特に整容面の改善にも心がけています。

★熱傷＝当院救急部、形成外科とともに重度熱傷まで対応が可能です。

★重度感染症・壊死性筋膜炎など＝必要なときには当院救急部の全身管理をうけながら対応が可能です。

★陥入爪甲＝フェノール法や人工爪、形状記憶合金で加療しています。

★脱毛症＝紫外線療法・SADBE にて加療しています。

★美容＝ケミカルピーリングその他の指導をしています。

★下肢静脈瘤＝超音波診断の上、弾性ストッキングの指導、適応例には静脈硬化療法をしています。

★糖尿病壊疽などの虚血肢＝難治例が多いのですが、血管外科･リハビリ科･形成外科などとチーム医療にて様々な方法を用いて血流を確認し、QOL を高めるための治療をしています。

＜まとめ＞　当院皮膚科は 1960 年の開設以来 50 年以上東播磨地域の中核施設としての機能を果たしてきました。アレルギー・膠原病・乾癬・重症感染症・重症虚血肢・熱傷から皮膚悪性腫瘍まで幅広く、かつそれぞれの疾患について専門的な診断・治療を行っています。スタッフ・医療機器・設備が充実しているうえ、ベッド数が 14 床と多く、外来加療困難例には入院加療を施行しています。悪性腫瘍診療や手術にも力を入れています。どうぞご利用ください。

＜研究会の御案内＞

加古川医師会の共催をいただき、毎年２回の東播磨皮膚科研究会を当院講堂木曜日夕方に主催しています。また当院褥瘡対策委員会主催の東播磨皮膚・創傷ケア研究会も、加古川医師会、播磨薬剤師会共催にて当院講堂にて毎年開催し、地域の医師、看護師、薬剤師、介護士、ケースワーカーの方々を招待しています。来年１月 31 日に東播磨皮膚科研究会に膠原病皮膚病変について筑波大学皮膚科教授藤本学教授の招待講演、来年２月７日木曜日に東播磨皮膚・創傷ケア研究会を開催します。近くなりましたらご案内を差し上げます。ご参加をお待ちしています。

専門看護師の活動

当院では４名の専門看護師がそれぞれの専門性を発揮して活動しています。

がん看護専門看護師　内田 恵

緩和ケアチーム専従看護師としての役割以外に、若年がん患者さんの妊娠・出産や遺伝性腫瘍に関する相談支援を担当する機会が増えています。治療開始前に妊娠・出産や妊孕性温存について希望を確認し、納得して治療を受けられるように支援しています。また、家族性腫瘍コーディネーターとして、遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）の遺伝カウンセリングを担当しています。今後はがんゲノム医療に対応した診療・相談体制が求められます。看護師として患者さん、ご家族の意向を汲み取り、つなぐ役割を担っていきたいと考えています。

がん看護専門看護師　関　典子

緩和ケア病棟に所属しており、毎週金曜日はリンパ浮腫外来を行っています。緩和ケア病棟では、患者さんとご家族が最期までその人らしく生活できることを目標に、緩和ケア内科医と病棟スタッフと共に実践を中心に活動しています。実践の中で相談を受けたり、他職種間との調整を行い、看護の質の向上のための教育支援や研究活動を行っています。リンパ浮腫外来では、リンパ浮腫の緩和だけでなく、患者がセルフケアを継続できるように支援しています。院内では ELNEC-J コアカリキュラム看護師教育プログラムを開催し、看護師の教育を支援しています。

慢性疾患看護専門看護師　正井静香

糖尿病をはじめとする生活習慣病を持つ患者さんへの外来での療養相談、関節リウマチ患者さんへのフットケアなどが現在の活動の中心です。長期にわたる療養生活がよりよいものになるよう、チームの一員として多職種と協働しながら実践しています。患者さんの病気の体験は１人１人異なるものであり、患者さんの語りを大切にしながら丁寧な関わりを心がけています。高齢化が進むなか、地域のスタッフの皆様とともに糖尿病看護の質を高めていけるよう、取り組んでいきたいと思っています。

急性・重症患者看護専門看護師　清水　愛

ICU に所属し、急な病気や事故で重篤な状態となられた患者さんとご家族が、より早期に危機的状態を脱し、回復できるよう支援しています。昨年度は、他のスタッフと連携しながら、ICU 患者の早期離床に向けて重点的に取り組みました。今年度は、院内で呼吸ケアチームのラウンドを開始する予定です。また、看護倫理の研修等を通して、スタッフの倫理的感性の高まりや問題解決能力の向上につながるよう関わっています。患者さんとご家族にとって何が最善かを考え、多職種で連携し、より良い支援を行っていくことを目標に活動しています。

県立加古川医療センター外来診療表

平成 30 年 10 月 1 日（月）～

			月	火	水	木	金
総合内科	初診		渡部	大北	中村	立花	中村
消化器内科	1 診		垰本(さかもと)	【尹(ゆん)】	【担当医】	【尹(ゆん)】	垰本(さかもと)
	2 診		廣畑	岡田	廣畑(午前)	廣畑	戎谷(えびすたに)
	3 診		尹(ゆん)			白川	
循環器内科	1 診		福田(午前)	住本(午前)	岩田	片嶋	岩田
	2 診					【ペースメーカー】	
神経内科	1 診		木村	【森本】	渡部(午前) 【森本(午後)】	森本	木村
糖尿病・内分泌内科	1 診		担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
	2 診			【立花】			
緩和ケア内科	入棟面談		担当医		担当医		担当医
生活習慣病			【肝炎】	【糖尿病・肥満】	【糖尿病・肥満】	【糖尿病・肥満】	
			【禁煙】 午後	【装具外来】 (隔週:毎月第2、4火午前)			
リウマチ科	1 診		田中	田中	田中	田中	担当医1
	2 診		塩澤	塩澤	塩澤	塩澤	担当医2
	3 診		村田	吉原	吉原	吉原	担当医3
	4 診		中川	【上藤】	村田	村田	中川
腎臓内科	1 診	午前	加藤				
		午後		中尾		加藤(1,3,5週) 【北浦(2,4週)】	
外科	1 診		高瀬	衣笠	小林		高瀬
	2 診		堀川		門馬(もんま)		【衣笠】
心臓血管外科	1 診			西脇			西脇(午後)
脳神経外科	1 診		担当医	相原	森下	担当医	相原
	2 診			担当医	担当医		担当医
乳腺外科	1 診		石川	石川		石川	
	2 診		小林			小林	
整形外科	初診 1 診		原田	中川	高山	青木	中川
	初診 2 診		岸本		市村	西原	
	再診 1 診		【青木】	【上藤(午前)】	原田	【高山】	【担当医(午前)】
	骨粗鬆症	午後	【岸本】		【市村】		
形成外科	1 診		櫻井	交代制	櫻井	櫻井	櫻井
	2 診		谷口		谷口	谷口	谷口
	3 診		【仲宗根】		【北野】	【仲宗根】	【北野】
皮膚科	初診／予診		【八木田】	【濱岡】	【高井】	【八木田】	【中谷】
	1 診	午前	濱岡	足立	足立	井上	足立
		午後	【アレルギー】	担当医		担当医	
	2 診	午前	中谷	八木田	井上	中谷	濱岡
		午後	【アレルギー】				
泌尿器科	1 診		丸山	大場	田中	丸山	田中
	2 診			担当医			大場
眼科	1 診	午前		薄木	【薄木】	【薄木】 【コンタクト(隔週)】	薄木
		午後	薄木				
	2 診		徳川	徳川	徳川		
	3 診		【秋田(午前)】	秋田	秋田		
リハビリテーション科	スポーツ整形	午後	【柳田】		【柳田】		
放射線科	IVR		担当医		担当医		担当医
	治療初診		担当医	担当医	担当医	担当医	担当医
	治療再診		【佐々木】		【石原】		【久島】

※各科診療予定は変更される場合がありますので、あらかじめご了承願います。
※【　】は予約できませんが、特別に受診を希望される場合等は、ご連絡下さい。
※リハビリテーション科・スポーツ整形は、主にアスリートの方を対象とさせていただいています。

お願い 患者様の待ち時間短縮のため、FAX またはインターネットで初診予約をお取り下さい。